



現場の話 ②

読書活動の推進



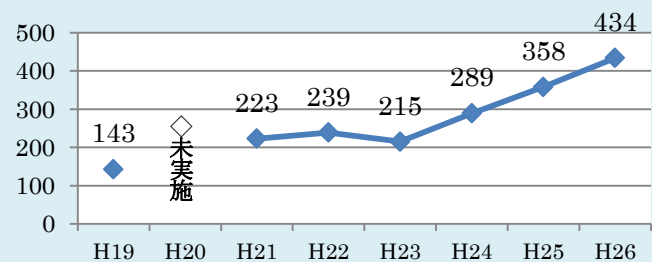
所長 佐藤 公一

7月下旬、宮古市で沿岸地区の読書ボランティア研修会を開催し、「もったいないばあさん」シリーズの著者である真珠(しんじゅ)まり子さんの講演を聴く機会に恵まれた。

「上手ではないですけど…」と謙遜されながら、BGMとともに、ご自身の作品をいくつか読み聞かせしてくださいました。そもそも、伝えたいことを構想し、それを絵本の形で表現された当のご本人による読み聞かせである。やはり胸に響くものがあったし、贅沢と思えるひとときだった。

それにしても、ここ10年間の読書ボランティアの広がりには目を見張るものがある。「読み聞かせ」という言葉を頻繁に耳にする時代になった。当初は、お母さんや女性のイメージが強かったボランティアも、今やお父さんや男性によるグループの活躍ぶりもしばしば聞かれる。

読書ボランティア研修会の参加者数(人)
(推進センター主管分のみ)



上のグラフは、当センターで実施した研修会の参加者数の推移である(25年度は大船渡会場、26年度は宮古会場を含む)。もちろん、このような研修会は、別途、教育事務所でも行われてきているわけであるから、その広がりや研修意欲が年々高まってきていることは、容易に想像できる。

少なくとも県内小学校においては、読み聞かせから図書館運営に関するボランティアまでの範囲でみれば、「何の活動もされていない」というところはほとんどないのではな

いか。残念ながら、ボランティアグループの詳細は把握できていないが、読書指導員のような人材を配置して、学校等の支援に努めている市町村もかなりある。また、中学校における活動についてもかなり浸透が進んでいるようだ。

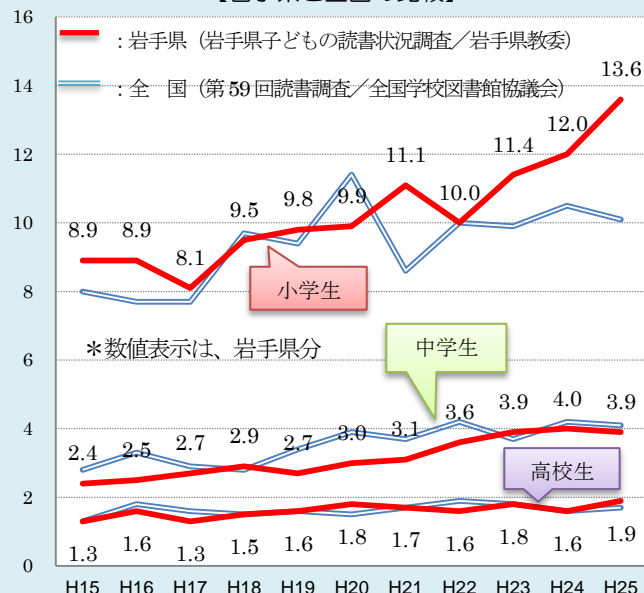
平成16年3月に『岩手県子どもの読書活動推進計画』が策定されて以来(現行は第3次計画)、「子どもが本に親しむ環境づくり」「家庭、地域、学校等が連携協力した取組の推進」「子どもの読書活動に関する普及・奨励と社会参加活動の促進」の3つの基本的な考え方の下に多様な施策が進められてきたが、正にその成果の一端であるといえる。

◇ 子どもたちの読書の状況

下のグラフは、過去10年間の本県と全国の児童生徒の1か月間の平均読書冊数の推移である。もとより読書は個人的な営みであるとともに、冊数が多ければよいというものでもないが、傾向や成果の一面を表すデータではある。

小・中・高ともに、堅調な増加傾向にあるといえるが、特に小学生の状況は、学校の取組はもとより、それを支えるべく、教育振興運動を始め、家庭や地域、図書館、幼稚園・保育所等が一丸となって取り組んだ努力の結果である。

1か月間の平均読書冊数の推移(冊)
【岩手県と全国の比較】



なお、昨年度の本県読書状況調査によれば、学校の図書館や地域の図書館等を利用する割合は、小学生で 77.2%、中学生 38.5%、高校生 26.4%と、学年や学校種が上がるにつれて低下傾向にあることから、学校図書館、公立図書館等の利用はいつそう促されていくべきと考えられる。



県教委では、平成 23 年 2 月、中高生を対象に、当時の中高生の意見も反映させながら、各分野のおすすめの図書 100 冊を選定し、文庫本サイズの冊子(通称『いわひゃく』)にまとめて県内中高生に配布した。震災があったことから、昨年度、県内公立図書館の蔵書状況を更新し増刷配布している。

現在、当センターにはその残部(文庫本サイズと配架用 A4 サイズの 2 種類)がかなりある。活用を希望される自治体や学校、施設等があれば、是非お知らせいただきたい。

新聞報道によれば、雫石町の下長山小学校では、このほど学校創立 140 周年周年記念事業として、学校図書館改良の第一人者で児童文学評論家の赤木かん子氏(東京都在住)を招き、「読書力アップ 劇的ビフォーアフター 学校図書館のつくり方」として、夏休みの 3 日間をかけ、保護者や地域住民約 180 人で図書館の大改造に取り組んだとのこと。「魅せる図書館づくり」も、読書活動推進の重要な柱である。

◇ 読書通帳の取組が始まっている

学校では、子どもたちの読書活動を促すため、学年別に読書の目標冊数を設定したり、発達段階に応じた「がんばり表」「読書記録カード」等を作成したり、授業の発展としてそのテーマに沿った図書を紹介したりするなど、様々な取組が進められている。がんばり表の類は定番もので、自分の読書履歴を振り返ることができる。

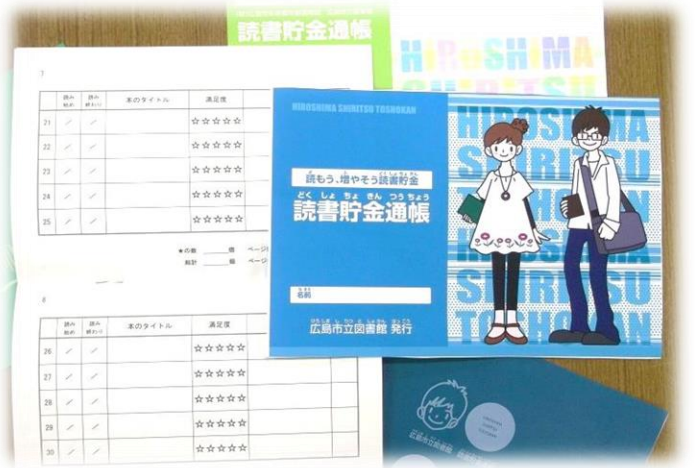
しかし、その方法や様式については、学級・学年レベルで

は一貫性があるものの、学校全体(たとえば小学校 6 年間を通してなど)となると、統一性が図られ履歴の蓄積が可能というところはそう多くはないだろう。ましてや学校種が変わってしまえば、ほとんどそれは期待できない。

今、全国各地の自治体(公立図書館)では、「読書通帳」を発行する動きが広まりつつある。読書の記録が丁寧に蓄えられていくことで、子どもたちは読書への意欲をさらにかきたてられる。家族や友だちと見せ合うことも、一つの楽しみになっているに違いない。

この通帳のスタイルは大きく二つに分けられる。

一つは、広島市立図書館(下の写真)のように、窓口で「読書貯金通帳」(冊子)をもらい、本を読んだ毎に書名や感想を自ら記録していき、50 冊になったら図書館から終了スタンプをもらって新たな通帳へと継続していく、といったしくみである。手軽なダイジェスト版も用意されていて、自分で台紙を折ってつくることもできる。



もう一つは、本格的な機械により記帳ができる通帳である。お馴染みの金融機関の通帳記帳機と同じスタイルで、通帳を差し入れると、日付や借りた本の書名が印字される。中には、本の価格が打ち出され、それまで借りた本の価格の合計が、「残高」として計上されるものもある。賛否はあるだろうが、これはある意味で、読書履歴の「見える化」の一つの工夫といえる。

現状では公立図書館に限られるものの、個人が学校種に左右されずに、ある程度の長い期間の読書活動の状況を一元的に記録できる興味深い取組である。

平成 22 年に記帳式の機械を導入した下関市立図書館が全国初とのことらしいが、その機械は数百万円単位の経費を要し、経費面がネックとなっている。ただ、自治体によっては、「金銭教育」の一環としてとらえる地域の金融機関の協賛を得て導入を進めているところもある。

県内においてもどこかで導入される日が待ち遠しい。

10月～12月の主な事業

12月までに予定されている研修講座のうち、主なものを紹介します。詳しくは、ホームページ「まなびネットいわて」をご覧ください。(順次掲載されます。)

10月24日(金) 対人スキルアップ専門研修講座

【対象】 県・市町村生涯学習関係職員

【内容】 講義・演習

「ビジネスマナーの基礎基本を学ぶ」

「クレーム電話への対応力をつける」

【講師】 コミュニケーションアドバイザー

田原 美晴 氏



《新規事業》

11月7日(金) 女性いきいきセミナー(釜石会場)

【対象】 女性活動者等

【内容】 震災復興に向けた地域活性化を進めるための女性を対象とした研修

※ 今年度の**新規事業**です。女性がますます活躍できる社会の実現を目指す研修会です。



11月27日(木) 事業周知・広報スキルアップ 専門研修講座

【対象】 県・市町村生涯学習関係職員

【内容】 魅力ある効果的な周知・広報活動に関する研修

※ 事業の周知にチラシは欠かせません。広報紙作成にも参考となる研修です。

12月2日(火) 子育てサポーターネットワーク 研修会

【対象】 子育てサポーター養成講座修了者等

【内容】 子育て支援活動の資質向上を図るとともにネットワーク形成を進めるための研修

※ 「子育てサポーター養成講座」修了者の中には、地域でサークルを立ち上げた方々もたくさんいます。その事例に学び、つながりをつくる機会です。

このほか、県内各地で、希望移動研修講座や復興支援セミナー等を実施しています。これまでの開催は、次のとおりです。

【希望移動研修講座】

5/29 一関市(社会教育職員等研修会)

6/12 久慈市(社会教育推進協議会研修会)

6/25 葛巻町(放課後子どもプラン指導者研修会)

6/26 宮古市(学校支援ボランティア推進研修会)

7/14 葛巻町(基礎から学ぶビジネスマナー)

【復興支援セミナー】

8/30 大槌町(ふるさと大槌学講座)

9/5 久慈市(地域活性化セミナー)

ご活用ください!

まなびネットいわて

「まなびネットいわて」では、市町村の「講座・イベント情報」や「ボランティア・指導者情報」「団体・グループ情報等、生涯学習の推進に役立つ情報を掲載しています。ぜひ、ご活用ください。



※当サイトは、Internet Explorer9,10での閲覧を推奨しております。

(Internet Explorer11での閲覧は互換モードに設定願います)

すこやかダイヤル すこやかメール相談

当センターでは、家庭教育支援として専門の相談員による「すこやか電話相談・メール相談」を行い、子育てに悩みや不安を持つ保護者からの相談に応じています。今年度は、県内小中学校の1年生及び保育園等の保護者に本事業のチラシ・ポスターを送付させていただきました。

また、毎週木曜には、子育てに役立つ情報満載の「すこやかメールマガジン」を配信しています。4月以降30名を超える方々に新規登録をいただき、内容も更に充実を図っております。相談及び登録は、下記で受け付けております。

◇すこやか電話相談 **0198-27-2134**

◇メール相談・メールマガジン配信登録

kosodatem@pref.iwate.jp

市町村事業紹介 田野畑村教育委員会

田野畑村は、北上山地から続く山々がつくるのどかな風景と、海のアルプスとも呼ばれる隆起海岸がつくる海岸線が魅力です。この自然豊かな地を活かし、人と地球にやさしい農業や畜産業、わかめやコンブの養殖をはじめ、サケやアワビなどの捕獲とした水産業を脈々と営んできました。

この田野畑も過疎・高齢化が進み、村内6小学校の統合などから、地域と学校の関係が希薄化し、教育力の低下が懸念されてきました。そんな中、学校支援地域本部事業を立ち上げ、学校と地域の連携体制の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制作りを努めています。

学校支援地域本部事業

平成22年4月、教育環境の改善を図るために、村内に6校あった小学校が統合しました。

1村1小学校・1中学校となり、小学校が閉校した地域では、それぞれ行っていた地域活動の継続が困難となり、子ども・親・教師・地域・行政の関わりが薄れてきました。そこで、6地区に1名ずつ地域教育コーディネーターを配置し、各地区と学校の橋渡し役として活動しています。

また、学校教育活動に携わる時は、学校支援ボランティアなどを募り、地域にとらわれず学校支援のための連絡調整活動などを行っています。

中学生学習支援事業

中学生の学力保障対策として、平成24年度から土曜日に塾講師を招き、希望者対象の学習指導や、ジャズ音楽などの芸術鑑賞、自分の進路について考えるためのワークショップなどを実施しています。

26年度からは、教育サポート企業「まなびー（トライアングルカンパニー）」の協力により、新しい学習システムを導入し、ホワイトボードを使って行っていた学習スタイルから、ICTを活用した学習スタイルへと切り替えました。開始時期も例年9月から7月へと早め、それぞれの進路に向かって進むことができるように、学年・自己レベルに応じた方法を取り入れています。



《伝承活動 菅窪鹿踊（田野畑地区）》



《講師によるワークショップ》



《ボランティアさんと田植え》



《新巻き作り体験》



《世代間交流》

「岩手県立生涯学習推進センター情報」第81号 / 編集・発行 岩手県立生涯学習推進センター

〒025-0301 花巻市北湯口 2-82-13 電話 0198-27-4555 FAX 0198-27-4564